

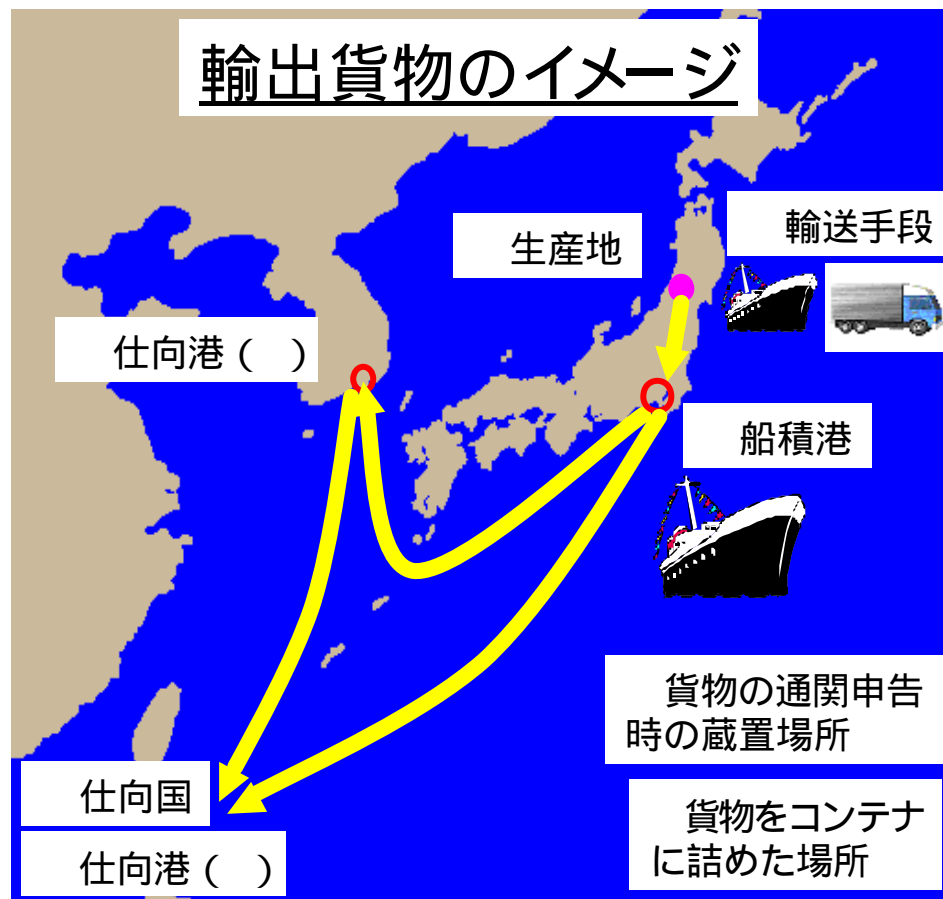
平成 15年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査 (速報値)の結果について

平成 16年 3月 19日
国土交通省港湾局

全国輸出入コンテナ貨物流動調査の概要

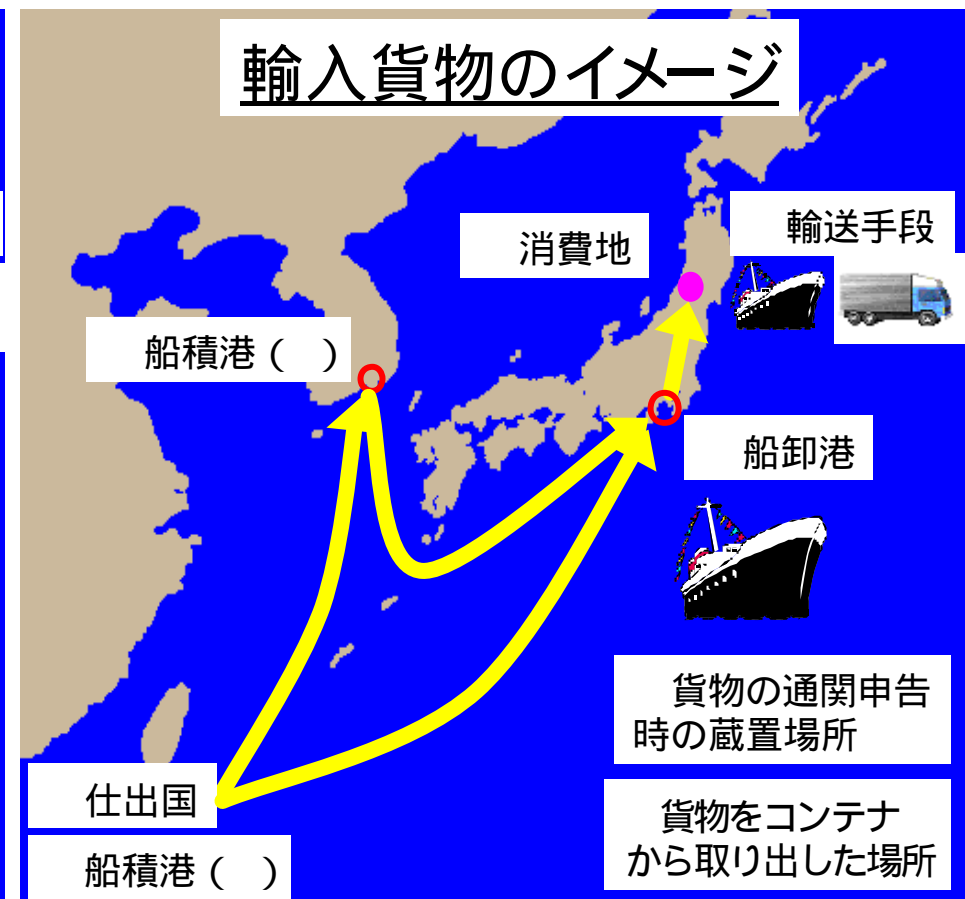
調査期間は平成 15年 10月 1日 ~ 31日の 1ヶ月間
この期間に税関に通関申告される海上コンテナ貨物が対象

輸出貨物のイメージ



仕向港 () 日本から仕向国の港まで直行する場合の港
仕向港 () 海外の港で積み替えて仕向国へ向かう場合の港

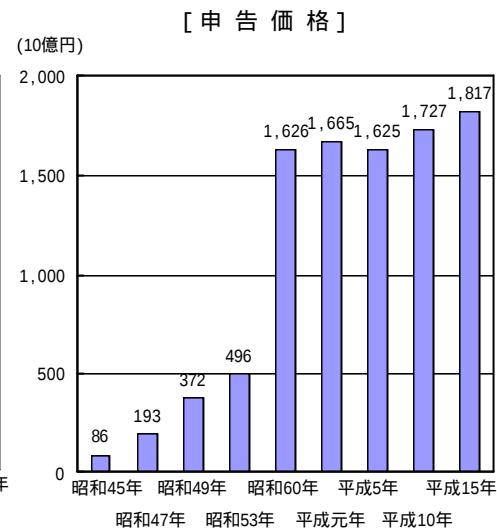
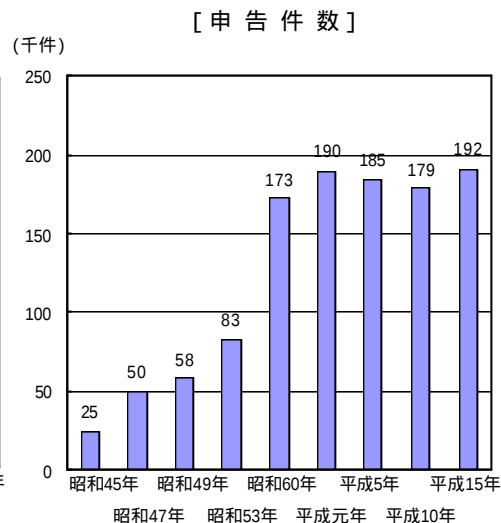
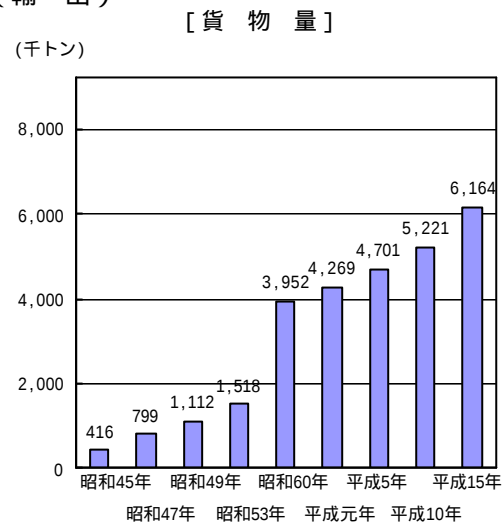
輸入貨物のイメージ



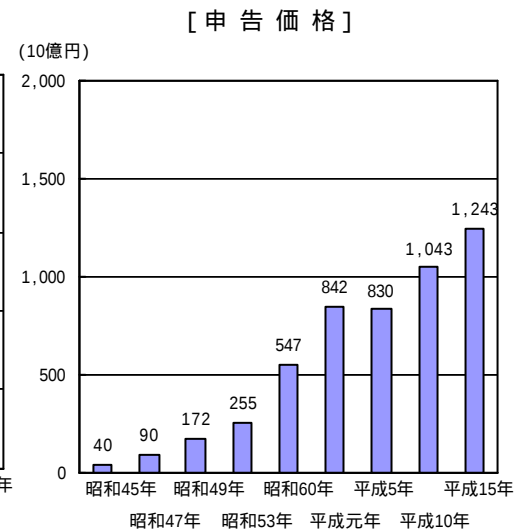
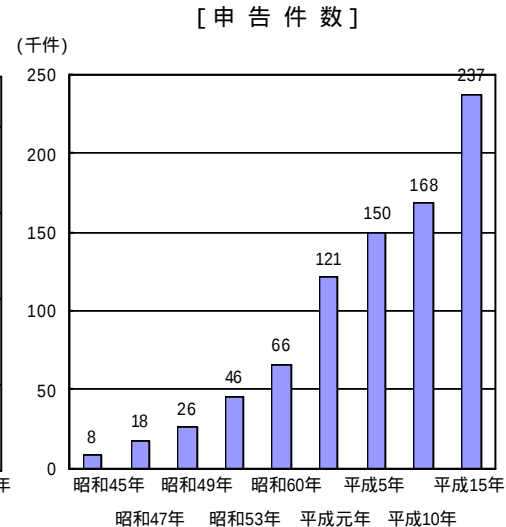
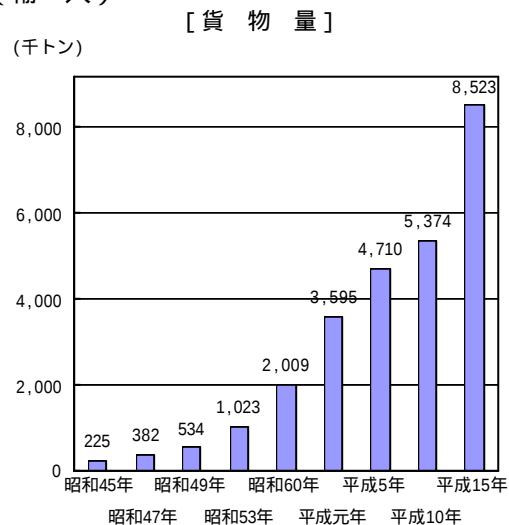
船積港 () 仕出国の港から日本まで直行する場合の港
船積港 () 海外の港で積み替えて日本に来る場合の港

コンテナ貨物量、申告件数、申告価格

(輸 出)



(輸 入)



調査期間

45年調査：昭和45年10月21日～11月20日
 47年調査：昭和47年10月21日～11月20日
 49年調査：昭和49年10月21日～11月20日
 53年調査：昭和53年10月1日～10月31日
 60年調査：昭和60年10月1日～10月31日

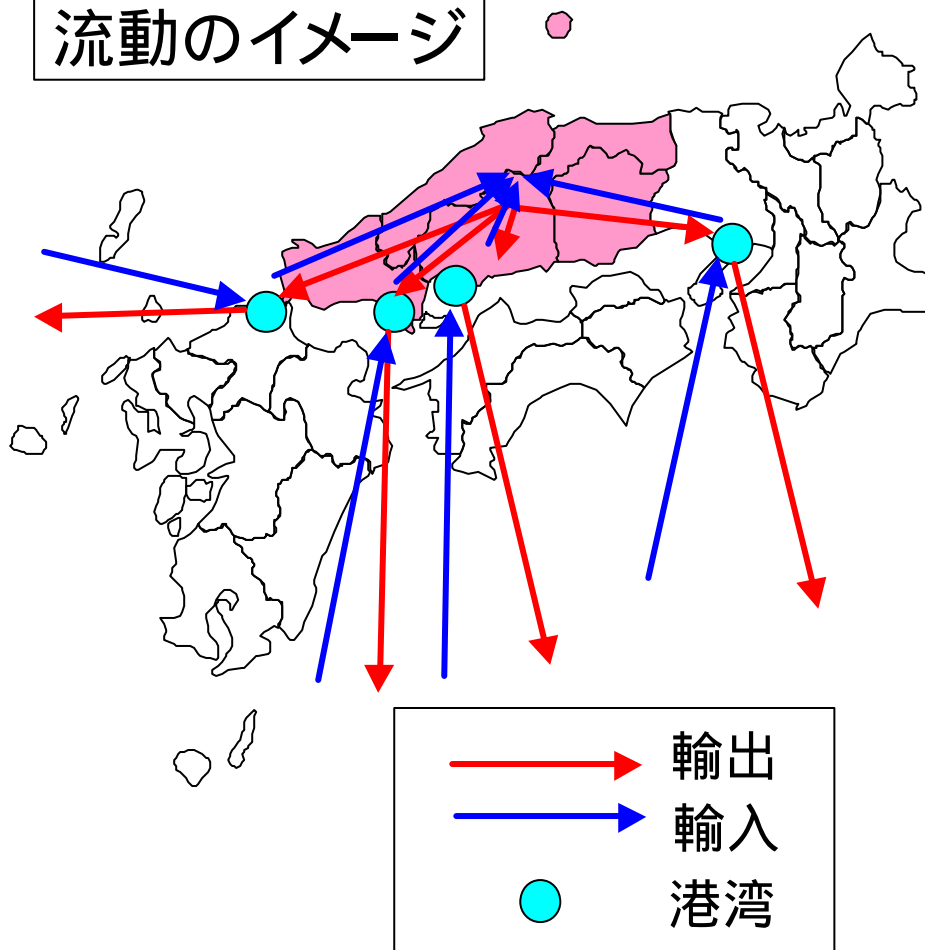
元年調査：平成元年10月1日～10月31日
 5年調査：平成5年11月1日～11月30日
 10年調査：平成10年10月1日～10月31日
 15年調査：平成15年10月1日～10月31日

生産地・消費地別 船積港・船卸港（中国地方の例）

下図は、中国地方を生産地・消費地とする貨物について、どの港で船積みされて輸出されるのか、またどの港で船卸されて輸入されているのかを示したもの。

中国地方を生産地・消費地においては、輸出貨物、輸入貨物とも神戸港で船積・船卸される量が最も大きいですが、構成比でみると、前回調査と比較して、輸出では51%→30%、輸入では45%→27%とシェアが減少しており、輸送距離の短い地域内の港湾を利用する貨物が増加していることが伺える。

流動のイメージ



○輸出 (単位：トン、%)

平成10年調査		
神戸港	232,595	51.0%
徳山下松	40,180	8.8%
北九州港	38,363	8.4%
大阪港	36,925	8.1%
岩国港	36,789	8.1%
地域内他港	50,892	11.1%
地域外他港	20,763	4.5%
合計	456,507	100.0%

○輸出 (単位：トン、%)

平成15年調査		
神戸港	153,340	29.9%
広島港	84,220	16.4%
岩国港	64,549	12.6%
徳山下松港	54,626	10.7%
北九州港	46,942	9.2%
地域内他港	67,246	13.1%
地域外他港	41,124	8.0%
計	512,047	100.0%

○輸入 (単位：トン、%)

平成10年調査		
神戸港	104,889	45.0%
北九州港	34,953	15.0%
大阪港	23,606	10.1%
広島港	19,026	8.2%
徳山下松港	14,688	6.3%
地域内他港	28,284	12.1%
地域外他港	7,631	3.3%
合計	233,077	100.0%

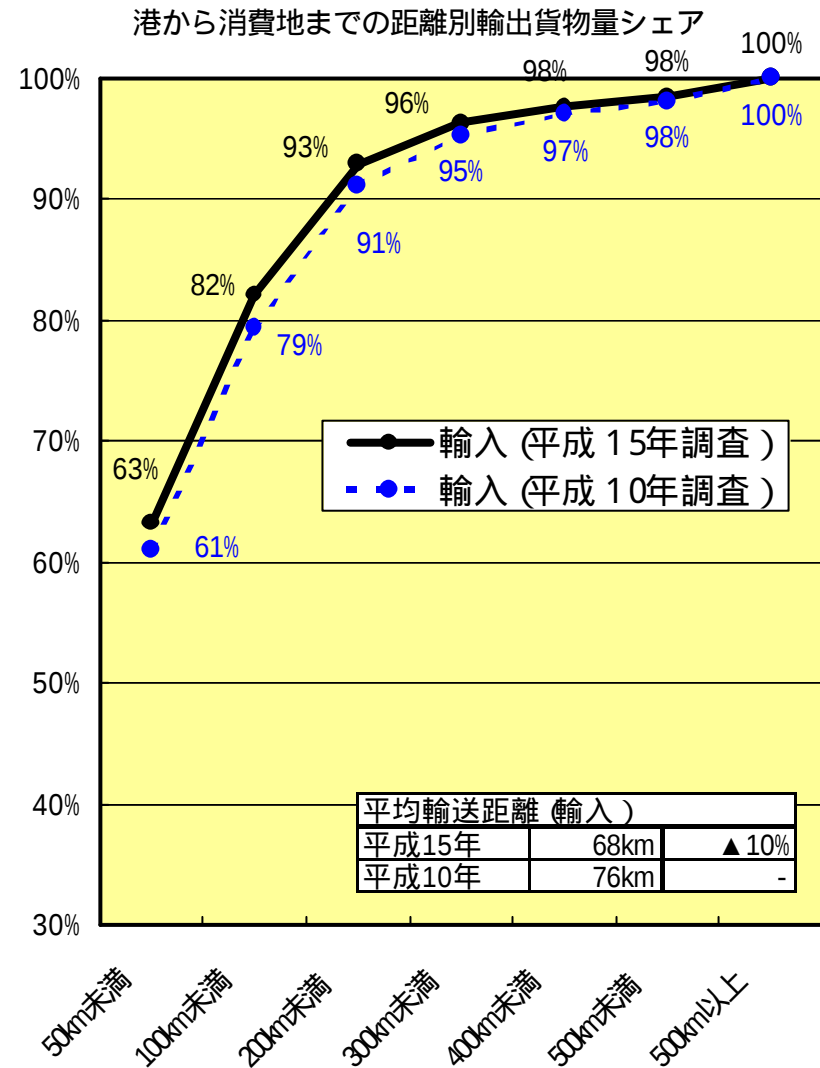
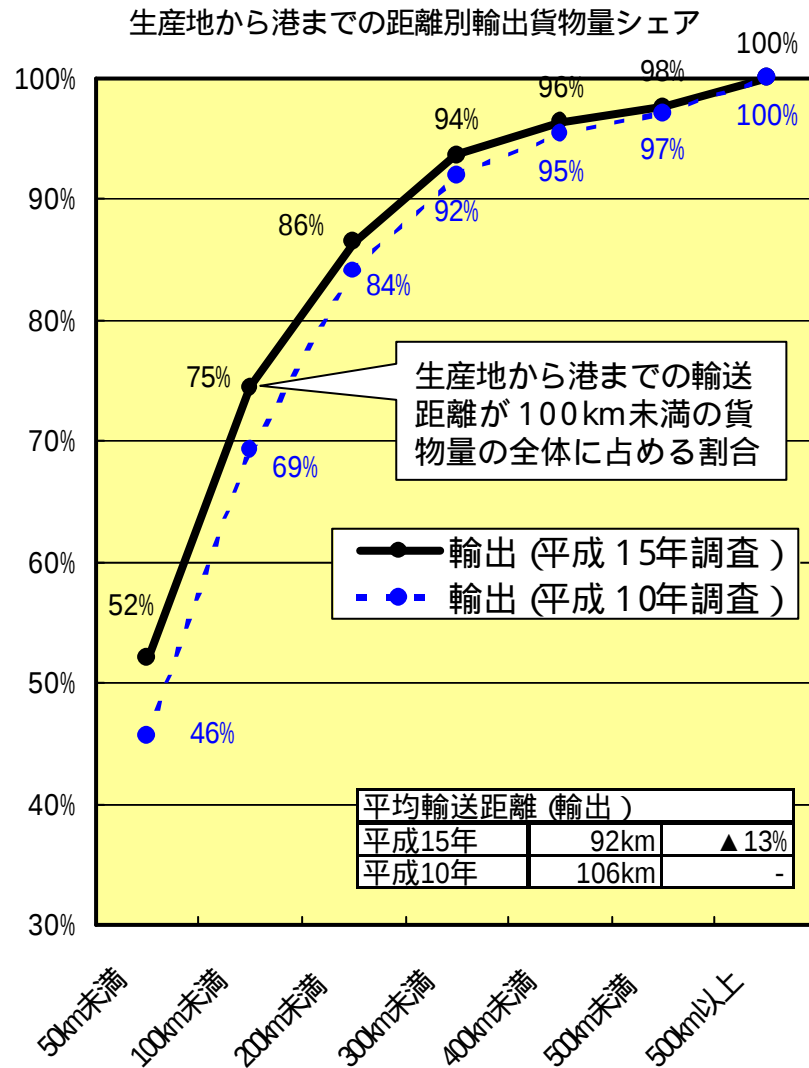
○輸入 (単位：トン、%)

平成15年調査		
神戸港	110,826	26.8%
福山港	64,090	15.5%
広島港	59,686	14.4%
水島港	45,747	11.1%
大阪港	36,541	8.8%
地域内他港	57,155	13.8%
地域外他港	39,599	9.6%
計	413,644	100.0%

生産地・消費地から港までの輸出貨物量シェア

下図は、輸出の場合は日本国内の生産地から船積港までの、輸入の場合は船卸港から日本国内の消費地までの距離帯別の輸出貨物量の構成比を累積で示したもの。

前回調査と比較して、生産・消費地から港までの平均距離が短くなっている。



日本発着のコンテナ貨物のうちアジア主要8港で積替輸送される比率

日本発着のコンテナ貨物のうち、アジア主要8港で積み替えられて諸外国へ輸送される貨物量は2,255千トン（輸出：936千トン、輸入：1,319千トン）であり、平成10年の前回調査と比較して約4倍（輸出4.4倍、輸入3.8倍）に拡大しており、全体貨物量に占める割合も5.3%から15.4%へと大きく拡大している。

